

子どもたちと一緒に考える被災地の復興支援

東日本大震災後 30 か月がすぎた今、被災地でのおとなたちの住宅、就労、まちづくりなどが軌道にのらず、見通しの立たないおとなや地域の暮らしの中で、子どもたちにも疲れがでてきています。

一刻も猶予のない子どもたちは何を感じ、自分の歩みをどのように続けているのでしょうか。そうした子どもたちに今後、私たちは何を支援しなければならないのでしょうか。

私たちは、子どもの声を大切に、被災地域の復興に子どもの声を反映させるためのあり方を、2012 年 1 月に実施した第 1 回シンポジウムではおとなたちで考えました。2013 年 1 月に実施した第 2 回では、被災後いろいろな形で寄り添ってきた子どもたち（高校生）が集い、大学生と一緒に支援の在り方について語りました。それから約 1 年。被災地で子どもたちは東京でのおとなとの対話を後輩につないできました。また岩手と宮城の子どもたちは福島の子もたちともつながりました。その中で、来年もまた語ろうという希望が子どもたちから出されました。

被災地の子どもたちは、東京の同世代や大学生、おとなたちに語ることで、新しい自分を見つけていきます。第 3 回にあたる今年も、この子どもたちの営みを支え、子どもたちの意見を受け止めたいと思います。

私たちおとなは、その意見を聴き、新たな段階に入っている被災地支援について、子どもたちと一緒に考え、提言をしていきたいと思っています。

ぜひ、ご参集ください。

【日時】2014 年 1 月 12 日(日)13 時～17 時 ※受付 12:30～

【場所】東洋大学 白山校舎 2 号館 16 階 白山スカイホール (東京都文京区白山 5-28-20)

地下鉄三田線白山駅 A3 出口より徒歩 5 分／東京メトロ南北線本駒込駅 1 番出口より徒歩 5 分

司会進行：荒牧重人（東日本大震災子ども支援ネットワーク運営委員 山梨学院大学教授）
森田明美（東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長 東洋大学教授）

<プログラム>

- 1 基調報告：東日本大震災における子ども支援の取り組みのこれまでとこれから：森田明美
- 2 被災地の子どもたちの報告と大学生・支援者との意見交換（3 グループに分かれて意見交換）
意見表明する被災地の子どもたち
ファシリテーター：林大介（東洋大学）、浜田進二（子どもの権利条約総合研究所）谷川由起子（NPO こども福祉研究所）
中学生（福島県いわき市）、高校生（岩手県山田町、宮城県登米市、宮城県南三陸町）
計 13 名（予定）、東洋大学社会学部学生、
3. 全体討議：3つのグループの報告を受けながら参加者と一緒に考えます
4. 参加団体からのメッセージ

【主催】東日本大震災子ども支援ネットワーク

【問い合わせ】東洋大学白山校舎 森田明美研究室

TEL・FAX 03-3945-7481 E-mail :info@shinsai-kodomoshien.net

【後援】東洋大学社会学部・東洋大学福祉社会開発研究センター

【協力】生活協同組合コープみらい、日興アセットマネジメント、NPO キッズドア、NPO こども福祉研究所